

大島正健 おしま まさたけ 言語學・音韻學者。安政六年七月二十五日相模國生
れ、昭和十二年二月十一日没（六五—一九三）。幼名金太郎。號湘川、
湘川漁史、湘川漁夫。明治九年伊藤一隆、荒川重秀等と共に札幌農學
校第一期生となる。十二年卒業後開拓使御用掛に任じ母校勤務、十九
年教授。二十六年辭して京都の同志社に轉じ、普通學校教授。翌年、
ホーソン作『ありふれ物語』明治二十七年五月十五日警視社書店）
を譯刊。二十四年以降奈良、山梨、宮崎の中學校校長を歴任。大正五
年渡鮮、セブランに入醫學學校教授、次で養正高等普通學校教授を務め、
十一年歸國。在鮮中の著述『支那七古韻史』（昭和四年刊）により京都
帝國大學より學位を受く。妻千代子は學友伊藤一隆の妹。動物學者大
島正滿の父。

著書は他に、『漢字と假名』（明治二十一年六月—二十七年内外出版協
會）、『音韻漫錄』（明治二十一年七月—二十六年内外出版協會）、『國
語の組織』（大正二年九月—二十六年長風社）、『クラーク先生とその弟
子達』（昭和十一年七月五日帝國教育會出版部、大島正滿補訂再刊・

二十二年十一月—二十五年日新教育出版社、同補訂二刊『クラーク先生とそ
の弟子たち』（二十二年九月五日宝文館）等。

